

# 本ばこ

## —新刊教材・図書紹介—

「日本語の教材や図書に関する新しい情報がほしい」という海外の先生方の声をよく聞きます。このコーナーでは、最近出版された日本語教材や参考書を中心に紹介していきます。誌面の制約上、一回に多くの本を紹介できませんが、「海外の先生にとって使いやすい教材」「授業や研究の役に立つ本」、また、「知っているとな便利な図書・資料」などを取り上げます。

- ※データ凡例 ①著者 ②出版社 ③刊行年月 ④ISBN ⑤判型・ページ数 ⑥定価 ⑦その他

まとめて学んで、日本語の表現を豊かにする

### 『にほんご単語ドリル』(ぎおん語・ぎたい語)

### 『にほんご単語ドリル』(慣用句・四字熟語)

#### データ

- ①奥村真希・釜淵優子 ②株式会社アスク  
 (〒162-8558 東京都新宿区下宮比町2-6  
 TEL. 03-3267-6864 FAX. 03-3267-6867  
 URL. http://www.ask-digital.co.jp ③2008年1月  
 ④978-4-87217-664-3 ⑤B5判 108頁  
 ⑥1,260円

#### データ

- ①倉品さやか ②株式会社アスク (〒162-8558 東京都新宿区下宮比町2-6 TEL. 03-3267-6864 FAX. 03-3267-6867 URL. http://www.ask-digital.co.jp ③2008年4月  
 ④978-4-87217-673-5 ⑤B5判 112頁  
 ⑥1,260円



### ▽毎回の授業で1ユニットずつ

2冊とも「単語ドリル」というタイトルのように2ページ1ユニットで、4語か5語ずつ学んでいけるようになっていきます。ユニットは、それぞれのことばについての簡単な説明と例文、練習問題から構成されていて、例文の内容を示したイラストが理解を助けてくれます。選択式や穴埋め式の練習では、そのユニットで紹介されたことばの理解や使い方が確認できるようになっています。

学習者のレベルにもよりますが、1ユニット30分程度で教えられるので、主教材の授業や技能別の授業の一部に取り入れることもできる便利な教材と言えます

日本語には、短いことばで状況や感情を豊かに表す擬音語や擬態語、慣用句がたくさんあります。紹介する2冊は、中級以降の学習や、日本人とのコミュニケーションに欠かせない、このようなことばや表現をまとめて学習できる問題集です。

### ▽どんどん覚えて、ぺらぺら話して—擬音語・擬態語—

物事が調子よく進む様子を表す<どんどん>や、なめらかによく話す様子を表す<ぺらぺら>のように行為の様子を表すことばを擬態語と言います。ドアが<ぱたんと>閉まる、<ぱたんと>閉まるのようにその時起こる音をことばで表したものを擬音語と言います。擬音語・擬態語の知識は、文型や技能中心の教科書ではなかなか増やすことができませんが、本書では、まとめて学ぶことができます。

第1章「動詞と一緒に覚える」では、「洗う」<ごしごし、じゃぶじゃぶ…>、「怒る」<おんぶん、かんかんに…>など基本動詞と一っしょに使われる擬音語・擬態語が1つの動詞ごとにユニットにまとめられていて、全部で35ユニットあります。第2章「テーマで覚える」では、体の調子<ふらふら、ぼーっと…>や気持ち<すっきり、うきうき…>、感覚別に

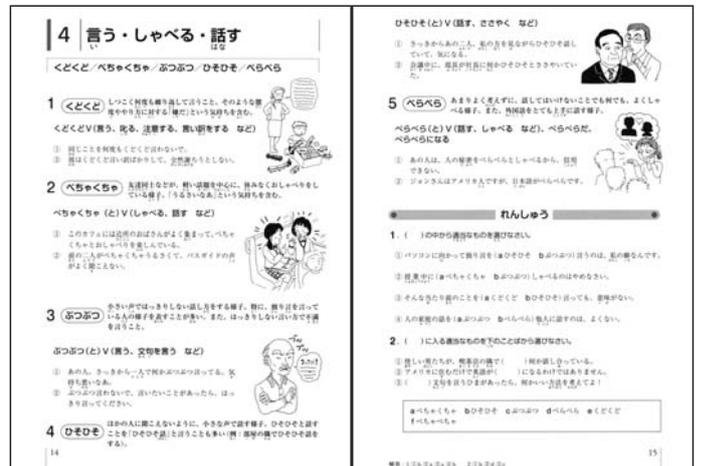
擬音語や擬態語が13のユニットに整理されています。

### ▽目が点になっても、臨機応変に一慣用句・四字熟語—

実際に目が点のように小さくなるわけではありませんが、驚いてあきれた時に<目が点になる>と言うことがあります。また、その時の状況に合わせて柔軟に対応することを<臨機応変>とひとことで言い表すことができます。<目が点になる>のような表現を慣用句、<臨機応変>のようなことばを四字熟語と言います。

第1章は慣用句が集められていて、「頭」<頭に入れる、頭が痛い…>、「動物」<馬が合う、猫をかぶる…>などキーワードごとに41のユニットにまとめられています。第2章では、<一石二鳥、鬼に金棒…>など四字熟語・ことわざ・成句が9つのユニットで取り上げられています。

#### 『ぎおん語・ぎたい語』



日本での生活場面をとりいれた中級への橋渡し

『ストーリーと活動で自然に学ぶ日本語 いつかどこかで』



**データ**  
**1** 萩原一彦 **2** 株式会社スリーエネットワーク  
 (〒101-0064 東京都千代田区猿樂町2-6-3  
 松栄ビル Tel 03-3292-5751 Fax 03-3292-6194)  
 URL <http://www.3anet.co.jp> **3** 2008年3月  
**4** 978-4-88319-462-9 **5** B5判、208頁  
**6** 2,625円

「読解練習」という構成になっています。(なお、本文と会話は付属CDに収録され、巻末には語彙と表現の英語・中国語・韓国語訳がつけられています。)

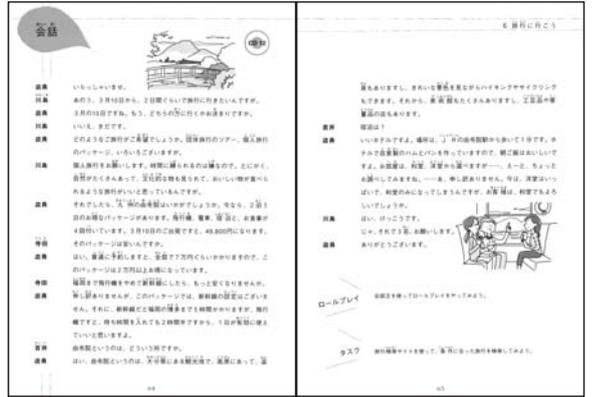
別冊には、練習問題の解答例のほか、教師用指導の手引きがついていて、ロールプレイの指導例やタスクシート、文法と例文の解説も収められています。

本書の特徴として、まずあげられるのは、物語・説明のような語りのテキスト(本文)と会話のテキストが並列していることで、異なったジャンルのテキストを対照して、文体(話し言葉・書き言葉)や話者の視点の違いを意識的に学ぶことができます。本文の文体は普通体で、会話は(母との会話を除き)ほとんどが丁寧体になっています。

各課の構成がすっきりしていて、学習者のニーズに合わせて授業計画を立てることもできる点で使

やすい教科書です。日本の生活に密着した場面がとらえているので、特に、これから日本の生活に関心がある学習者の方々にオススメです。

初級を一通り終えた学習者のための教科書で、日本での生活場面を取り入れています。章立ては、「アパート探し」「電車で行こう」「病気になるたら」「アルバイト探し」「緊急事態」「旅行に行こう」「暑中見舞い」「ゴミは分けて出そう」「苦情」「自炊してみる」「伝言」「安く買おう」「郵便で送る」「結婚式に呼ばれる」「初めてのデート」の15章で、全体的にストーリーのようになっています。一課は、物語風の「本文」とそれに関連する「会話」「語彙と表現」「文法と例文」「文法練習」



P.64

P.65

新聞14年分のデータから判定

『日本語学習のためのよく使う順漢字2100』

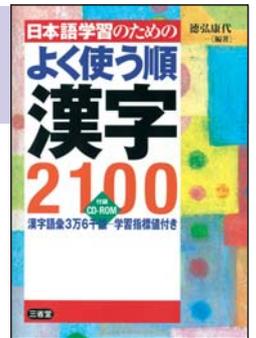
**データ**  
**1** 徳弘康代 **2** 株式会社三省堂 (〒101-8371  
 東京都千代田区三崎町2-22-14 TEL. 03-3230-9411 FAX. 03-3230-9547) URL <http://www.sanseido.co.jp/>  
**3** 2008年4月 **4** 978-4-385-14073-5 **5** A5判 544頁 **6** 2,415円

漢字や語彙を効率よく学ぶためには、実際どのような漢字や語がよく使われているのかわかることが、一つの手がかりとなります。この漢字辞典は、朝日新聞14年分の資料の中で使われている漢字と語の「頻度」(使われた回数)のデータと、「親密度」(その漢字や語についてのどのぐらいなじみがあるか)の調査結果を用いて、漢字をよく使われる順に2100字あげています。それぞれの漢字には、読みや意味、書き順、部首、日本語能力試験の級などのほか、その漢字を含むよく使われる語や表現が例文とともに示されています。

付属のCD-ROMには漢字語彙36000語の

データが収められていて、頻度や親密度、意味概念などの情報を得ることができます。例えば、「手」という漢字がつく語を検索してみると379語が出てきます。それを、日本語能力試験の級で並べ替えたり(上手、お手洗い、手紙、下手…)、頻度や親密度から割り出した学習指標値で並べ替えたり(選手、相手、拍手、手数料…)することなどができます。そのほかにも、既習の漢字にどんな語があるのか、その語がどのくらい使われているのかを調べたり、意味概念で語彙を検索したり、同音異義語を探したりなど、さまざまな使い方ができます。

この辞典は、ある程度漢字を学習した人の資料用として作成されたそうですが、漢字や語彙を教える日本語教師にとっても大変参考になります。特にカリキュラムデザインを行った教科書を作ったりするには、漢字、語彙のシラバスや提出順序を決める基礎資料として使うことができます。



P.41

# おいしい授業の素材とレシピを提供します！ 日本語を教たい人のためのはじめての授業キット

## データ

- 1 大森雅美、鈴木英子、中空芳江、福田規子
- 2 株式会社アルク (〒168-8611 東京都杉並区永福2-54-12 TEL. 03-3323-5514 FAX.03-3323-2021) URL <http://www.alc.co.jp/>
- 3 2008年5月
- 4 978-4-7574-1436-5
- 5 B5判、500頁
- 6 11,550円
- 7 総重量3kg

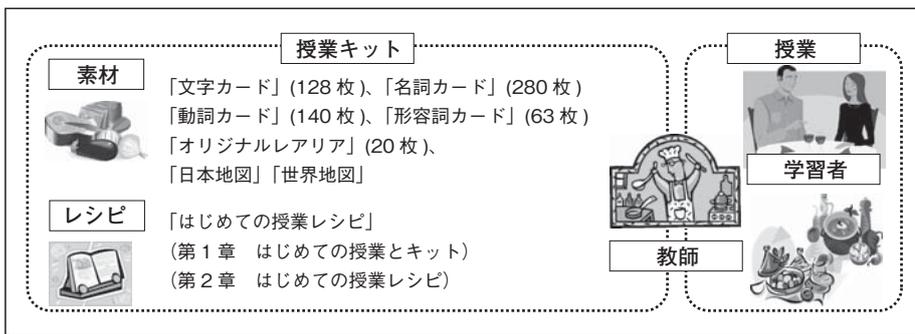
料理に食材(素材)とレシピはつきものですが、この教材(以下、授業キット)の内容

も素材とレシピ(活動案)に分かれています。下の図はこの授業キットの内容とそのイメージです。

もちろん、素材部分だけを使って授業することも可能ですが、この授業キットの特徴は「はじめての授業レシピ」がついていることです。この「はじめての授業レシピ」の第1章には、「授業の組み立て方」など教師としての基本的な心得が、第2章には「文型のレシピ」「文字・語彙のレシピ」「その他のレシピ」と



P.28



いう構成で、ゲームや実際場面を想定した活動など初級レベルの442のレシピが載っています。各レシピは、学習項目ごとに、準備するもの、授業の進め方、授業での会話例、注意事項などが具体的に書かれていて、料理をするようにレシピにしたがって授業ができるようになっています。キットになっていますが、身の回りのものや自作のものを使うこともできます。国内外を問わず、日本語教育の経験の浅い教師にも役立ちますが、授業がマンネリに陥っている人、今日の授業は緊急避難したい(!?)という人などにお薦めです。

# 料理でわかる年中行事と自然の風物 『きせつの行事りょうり キッズレシピ』

## データ

- 2 株式会社小学館 (〒101-8001 東京都千代田区一ツ橋2-3-1 TEL. 03-3230-5442 FAX.03-3234-7420) URL <http://www.shogakukan.co.jp/>
- 3 2008年2月
- 4 978-4-09-217271-5
- 5 B5判 80頁
- 6 1,260円

どの国や地域にも、年中行事のときに食べる料理や、季節を代表する食材がありますね。本書は、日本の子どもたちが、手軽に季節の料理を作って味わえるような簡単なレシピ(材料と作り方)を紹介しているものです。次のような内容が紹介されています。

各章は、四季に分かれており、それぞれに伝統的な行事と、昔からよく食べられてきた料理のレシピが紹介されています。例えば、「春」には、「雛祭り(ちらし寿司、手巻き寿司)」、「端午の節句(柏餅、ちまき)」、「夏」には、「七夕(そうめん)」「土用の丑の日(うなぎ)」、「秋」には、「月見(月見団子)」「彼岸(おはぎ)」、「冬」には、「冬至(かぼちゃ

の煮物)」「大晦日(けんちんそば)」「正月(くろ豆、ぞう煮)」などがあげられています。

各季節の章には、「春(夏、秋、冬)を味わおう」のコーナーがあり、季節の食材の食べ方や風物が紹介されています。

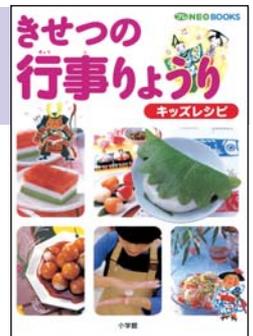
最後に、「なるほどじょうほう」では、季節の食材の選び方、料理を作るときのことば、季節の行事や食べ物クイズが紹介されています。

## ▽日本語の授業で活用したいとき

海外の初・中等教育で、日本の年中行事や食文化を紹介するとき、素材集として活用できます。また、子どもがチャレンジできるよう、料理の材料や作り方が分かりやすく紹介されている上、料理を作るときのことばや、切り方のことばがふりがなつきで説明されています。

成人の学習者の場合でも、きれいな写真が載っているので、見て分かる食材の名前や調理法を想像させることも可能です。日本の

食材が揃わない海外では、代わりになる食材を使って、いかに再現できるかを競うような活動も可能です。



P.22 (七夕そうめんの作り方)

P.11~13は日本語国際センターの以下の専任講師が図書を選び、分担して紹介文を執筆しました。

八田直美、生田守、中村雅子、三原龍志、金孝卿(執筆順)